メンタルヘルス対策について

　大項目の２番目、メンタルヘルス対策についてお伺いします。

近年、社会構造の変化・経済状況の悪化などに伴い、社会全体にストレスが蔓延し、うつ病や統合失調症などの精神疾患の患者が年々増加しており、がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病の４大疾病の患者数をはるかに上回っているのが現状であります。精神疾患による自殺者も増えており、「患者数が多く、かつ死亡率が高いなど、緊急性を要する」ということで、これまでの４大疾病に精神疾患を加えて５大疾病とする方針が、昨年厚生労働省から発表があり、精神疾患の治療が一歩前進することになりました。

心の病・心の健康問題は、児童虐待・ＤＶ・いじめ・自殺など様々な症状・形として表れ、社会的損失も大きく、国民の生命・健康・生活を守るうえで深刻な問題となっています。社会的損失について申し上げると、一昨年全国の推定疾病休業人口は４７万4,000人、平均休業月数は5,2ヶ月との調査があり、企業が受ける損失は年間で約1兆円にも上ると見られています。また、２０１０年に厚生労働省が試算した自殺、うつ病対策の経済的便益の推計によると、自殺・うつ病がなくなった場合のＧＤＰ引き上げ効果は、約1，7兆円にも上るとされております。

こうした現代的な課題・心の問題の対策としては、大きく３つの段階に分けることができます。まず予防対策として、知識の周知や相談窓口の設置など自己管理のための環境整備です。次に早期発見・早期治療、最後に、リハビリや復職・社会復帰支援です。

治療に関しまして、我々公明党は、うつ病対策のワーキングチームを作り薬だけに頼らない『認知行動療法』に注目し、政府に提言、粘り強く推進した結果、２０１０年４月に『認知行動療法』が保険適用されました。本市では、メンタルヘルス対策として、ゲートキーパーの育成、『心の健康チェックリスト』の配布、心の健康づくりに関する講座開設など、様々取り組みをおこなっていただいています。

そこで質問の１点目に、本市のうつ病患者数の推移、そしてうつ病対策の事業効果をお聞かせください。

**３**

うつ病対策はどの段階の対策も大事ですが、ここでは早期発見・早期治療に結びつけるための対策、セルフメンタルチェックシステム『こころの体温計』の導入についてお伺いします。

この『こころの体温計』は、自分の心の状態（ストレス）を確認するもので、携帯電話やパソコンから気軽にいつでもメンタルヘルスをチェックできます。人間関係や生活の充実度など１３項目の質問にゲーム感覚で回答します。チェックすると、赤や青の金魚、水槽、猫などのキャラクターが現れ、金魚に張られたばんそうこうの数や、水槽のヒビ、水の透明度、猫の行動などで心や体、対人関係、社会的なストレス、家庭状況、気持ちの落ち込み具合などが、レベル１から４まで表示されます。また、身近な人の心の状態をチェックする「家族モード」や、育児ストレス度などを調べる「赤ちゃんママモード」もあります。それぞれの結果判定の画面で、市や県の相談窓口や専門病院などの連絡先を紹介するものです。

東京世田谷区や八王子市、平塚市、つくば市、県内では西宮市、丹波市など多くの自治体が導入しております。

質問の２点目に、心の病を早期に発見する一つの方法として、多くの方々が自分の心の状態をチェック、メンタルヘルスチェックをし、「こころの健康」の維持・増進を目指していただくために、セルフメンタルチェックシステム『こころの体温計』を導入してはどうかと考えますが、ご所見をお聞かせください。

**４**